

再処理工場など原子燃料サイクル施設周辺の 環境放射線等調査結果

2025年7月～9月

調査結果

これまでと同じ水準であり、
当社施設からの影響は認められませんでした。

調査のながれ

監視測定



評価・確認

青森県原子力施設 環境放射線等監視評価会議*



公表



① 空間放射線

2025年7月～9月

各地点の測定結果は以下のとおりです。

全ての地点で「過去の測定値の範囲」を上回る値は測定されませんでした。



測定地点	今回の測定値の範囲 (ナノグレイ/時)
泊(とまり)	20-100
吹越(ふっこし)	20-100
二又(ふたまた)	20-100
老部川(おいっpegawa)	20-100
尾駈(おぶち)	20-100
室ノ久保(むろのくぼ)	20-100
有戸(ありと)	20-100
平沼(ひらぬま)	20-100
千歳平(ちとせたい)	20-100
淋代(さびしろ)	20-100
谷地頭(やちがしら)	20-100



*令和7年4月から測定を開始しています。
過去の測定値の範囲は、1年以上データを蓄積した時点で掲載します。

放射線と放射能の単位

ベクレル (Bq) : 放射能(放射線を出す能力)の強さを表す単位
グレイ (Gy) : 物質が吸収した放射線の量を表す単位
シーベルト (Sv) : 放射線の人体への影響を表す単位

〔参考〕
ミリ (m) …… 1,000分の1
マイクロ (μ) …… 100万分の1
ナノ (n) …… 10億分の1

② 環境試料中の放射能

2025年7月～9月

各試料の測定結果は以下のとおりです。

一部の試料(青字部分)で「過去の測定値の範囲」を上回りましたが、「放射性物質の自然変動等によるものと考えられる」と評価されました。



試料の種類	測定項目	測定結果	単位
陸水 (河川水 湖沼水 水道水 井戸水)	セシウム-137	ND	ミリベクレル/リットル
	トリチウム	ND	ベクレル/リットル
	ストロンチウム-90	ND	ミリベクレル/リットル
	ストロンチウム-90	ND	ミリベクレル/リットル
	プルトニウム-238	ND	ミリベクレル/リットル
	プルトニウム-239+240	ND	ミリベクレル/リットル
陸土 (河底土 湖底土 表土)	セシウム-137	ND	ベクレル/キログラム
	セシウム-137	ND	ベクレル/キログラム
	ストロンチウム-90	ND	ベクレル/キログラム
	ヨウ素-129	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-239+240	ND	ベクレル/キログラム
牛乳 (原乳)	セシウム-137	ND	ベクレル/リットル
	炭素-14	ND	ベクレル/リットル
	ストロンチウム-90	ND	ベクレル/リットル
	ウラン	ND	ベクレル/リットル
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/リットル
	プルトニウム-239+240	ND	ベクレル/リットル
野菜 (ハクサイ キャベツ ダイコン ナガイモ パレिशヨ)	セシウム-137	ND	ベクレル/キログラム
	炭素-14	ND	ベクレル/キログラム
	ストロンチウム-90	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-239+240	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/キログラム
海水	セシウム-137	ND	ベクレル/リットル
	トリチウム	ND	ベクレル/リットル
	ストロンチウム-90	ND	ベクレル/リットル
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/リットル
	プルトニウム-239+240	ND	ベクレル/リットル
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/リットル
海産生物 (イカ、ホタテ、アワビ、ヒラメ、サメ、ウニ、コンブ、ヒラメ、サメ、イカ、ムサシイガイモ)	セシウム-137	ND	ベクレル/キログラム
	トリチウム	ND	ベクレル/キログラム
	ストロンチウム-90	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-239+240	ND	ベクレル/キログラム
	プルトニウム-238	ND	ベクレル/キログラム

※今回は測定対象外

すべての調査結果は、青森県のホームページからご確認いただけます。

青森県の原子力安全対策

こちら現場の ツカエルです

皆さまからのよくある質問にお答えするため、担当者に話を聞きました!

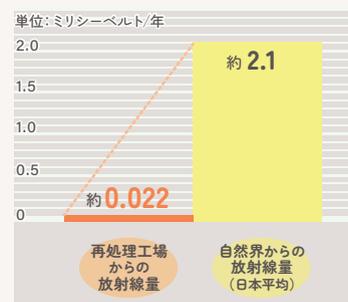


地域交流部 川村 息吹 (六ヶ所村出身)

Q 再処理工場からの放射線の影響について教えて!



A 再処理工場からの放射性物質による影響は、工場が本格操業している状態で「年間約0.022ミリシーベルト」と評価しています。この数値は、国の安全審査においても確認されており、健康に影響を与えるレベルではありません。



呼吸や食べ物などによって、私たちが自然界に存在する放射線から受ける影響(約2.1ミリシーベルト/年間・日本平均)の「1/100程度」です。